

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	こころとからだのしくみと生活支援技術	講師名	石黒 美穂子	授業時間数	75		
科目の概要		1 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実践できる。 2 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える知識や介護技術を講義と演習を一体的に実施する中で習得する。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護者等に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 2 要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説でき、生活の中の介護予防、及び介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 3 利用者の身体の状態に応じた介護、環境整備についてポイントを列挙できる。 4 人の記憶の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 5 家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 6 装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 7 体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器や様々な車椅子、杖等の基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 8 食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 9 入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 10 排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 11 睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備や関連した用具を列挙でき、睡眠にかんするからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 12 ターミナルケアの考え方、対応のしかた・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティアを含む）について、列挙できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 基本知識の学習		12	・ 介護の基本的な考え方 ・ 介護に関するこころとからだのしくみの基本的理解 ・ 介護に関するからだのしくみの基本的理解				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

② 生活支援技術の学習	51	・生活と家事 ・快適な居住環境整備と介護 ・整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ・移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ・食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ・入浴・清潔に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ・睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 ・死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護
③ 生活支援技術演習	12	・介護過程の基本的理解 ・総合生活支援技術演習事例の提示と実施
試験		・筆記試験

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	介護の基本	講師名	岡田 雅子	授業時間数	6		
科目の概要		1 介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解する。 2 介護必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点からの支援を捉える。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列挙できる。 2 介護職として共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列挙できる。 3 介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について、ポイントを列挙できる。 4 生活支援の場で出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列挙できる。 5 介護職の起こりやすい健康被害や受けやすいストレス、またそれらの対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を列挙できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 介護職の役割、専門性和他職種との連携		1	・ 介護環境の特徴の理解 ・ 介護の専門性 ・ 介護に関わる職種				
② 介護職の職業倫理		2	・ 職業倫理 ・ 専門職としての倫理の意義 ・ 介護職としての社会的責任 ・ プライバシーの保護・尊重				
③ 介護における安全の確保とリスクマネジメント		2	・ 介護における安全の確保 ・ 事故予防、安全対策 ・ 感染予防				
④ 介護職の安全		1	・ 介護職の心身の健康管理 ・ ストレスマネジメント ・ 感染症対策				
試験			・ 筆記試験				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	介護・福祉サービスの理解と医療との連携	講師名	佐藤 恵	授業時間数	9		
科目の概要		1 介護保険制度や障害者総合支援制度を担う一員として最低限度知っておくべき制度の目的、サービスの流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 生活全体の支援のなかで介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 2 介護保険制度や障害者総合支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料の大枠について列挙できる。 3 ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 4 高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見の制度の目的、内容について列挙できる。 5 医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士制度が行う医行為などについて列挙できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 介護保険制度		4	・ 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ・ 仕組みの基礎的理解 ・ 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割				
② 医療との連携とリハビリテーション		2	・ 医行為と介護 ・ 訪問介護 ・ 施設における看護と介護の役割・連携 ・ リハビリテーションの理念				
③ 障害者総合支援制度及びその他制度		3	・ 障害者福祉制度の理念 ・ 障害者総合支援制度の仕組みの基礎的理解 ・ 個人の権利を守る制度の概要				
試験			・ 筆記試験				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	介護における 尊厳の保持・自立支援	講師名	阿部 香子	授業時間数	9		
科目の概要		介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 介護の目標や展開について、尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 2 虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 人権と尊厳を支える介護		6	・ 人権と尊厳の保持 ・ ICF ・ QOLの考え方、生活の質 ・ ノーマライゼーション ・ 虐待防止、身体拘束禁止 ・ 個人の権利を守る制度の概要				
② 自立に向けた介護		3	・ 自立支援 ・ 介護予防				
試験			・ 筆記試験				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	介護における コミュニケーション技術	講師名	阿部 香子	授業時間数	6		
科目の概要		高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを採ることが専門職に求められていることを認識し、講義と演習を一体的に実施する中で、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 共感、受容、傾聴的態度、気づきなど、基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 2 家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 3 言語、視覚、聴覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 4 記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
①介護におけるコミュニケーション		3	・介護におけるコミュニケーションの意義、目的役割 ・コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ・利用者、家族とのコミュニケーションの実際 ・利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際				
②介護におけるチームのコミュニケーション		3	・記録における情報の共有化 ・報告、相談、連絡の留意点 ・コミュニケーションを促す環境				
試験			・筆記試験				

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	実習（介護におけるコミュニケーション技術・こころとからだのしくみと生活支援技術）	講師名	阿部 香子	授業時間数	36		
科目の概要							
1 事前オリエンテーション							
2 実習							
3 実習後の振り返り							
終了時の達成課題（到達目標）							
1 実際に介護が行われている施設において、実習指導者の指示・助言を受けながら利用者の生活を見学、または関わることで、介護のあり方を理解する。							
2 施設で生活している利用者とのコミュニケーションを通して、個々の人間の理解、生活の理解を深め、気づきをもって学習の積み重ねができる。							
3 施設での見学・体験を通して、介護者に求められる姿勢、役割を認識するとともに、介護職に対して就業意欲をもつことができる。							
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
1 事前オリエンテーション							
(1) 実習配属表を作成し実習施設毎に交通経路・時間等を説明							
(2) 必要書類をまとめて実習ファイルを個々に配付 交通機関・出欠簿・実習オリエンテーション（実習の手引き）・留意事項・実習日誌・まとめの記録用紙							
(3) 実習ファイルに基づき、実習中の流れを説明							
(4) 記録の仕方の説明							
(5) 実習後の学習の流れを説明							
(6) グループ毎にリーダー・サブリーダーを決め、役割を示す							
(7) 利用者との接し方・関わり方について具体例を用いて演習							
2 実習							
(1) 実習の初日に実習担当者からオリエンテーション							
(2) 見学・コミュニケーションを通しての関わりから、業務に支障が出ない範囲で指導・助言を受けて体験学習する							
(3) 毎日の実習で振り返りの時間を設け、実習担当者による記録や質問等への対応							
3 実習後の振り返り							
(1) 実習ファイルをもとに、実習後の感想を1人ずつ述べる。感想の内容によっては、演習等を通して学習を深める。							
(2) 他者の感想・意見等を聞いた上で再度自身の実習を振り返り、記録用紙をまとめる。 過去の受講生の記録等も紹介しながら書き進める							
(3) 報告会を設け、記録したものをもとに、1人ずつ発表する							
(4) 発表終了後、記録用紙を全員分まとめ、報告集として配付する							

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	職務の理解	講師名	岡田 雅子	授業時間数	6		
科目の概要		1 これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」などの実践について、介護がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージを持って実感し、研修に実践的に取り組むことができる。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 今後の研修内容が理解できる。 2 介護サービスや介護の仕事内容が具体的にイメージできる。 3 上記を理解することで、その人の生活を支える介護のあるべき姿を目指し、取り組むことができる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 多様なサービスの理解		2	・ 介護保険サービス（居宅・施設） ・ 介護保険外サービス				
② 介護職の仕事内容や働く現場の理解		4	・ 居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ・ 居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的なイメージ ・ ケアプランの位置づけに始まるサービス提供に至るまでの一連の業務の流れ ・ チームアプローチ、 ・ 他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携				
試験			・ 筆記試験				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	老化の理解	講師名	高橋 直美	授業時間数	6		
科目の概要		1 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気付ける。 2 上記を踏まえ、自らが継続的に学習すべき事項を理解できる。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 2 高齢者に多い疾患の種類と、その症状や特徴及び治療・生活上の留意点、及び高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 老化に伴うところとからだの変化と日常		2	・ 老年期の発達と老化に伴う心身の特徴 ・ 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響				
② 高齢者と健康		4	・ 高齢者の疾病と生活上の留意点 ・ 高齢者に多い病気とその生活上の留意点 ・ 疾病の小さな変化に気付く視点				
試験			・ 筆記試験				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	認知症の理解	講師名	山谷里希子	授業時間数	6	
科目の概要						
1 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解できる。						
終了時の達成課題（到達目標）						
1 認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。						
2 健康な高齢者の「物忘れ」と認知症による記憶障害の違いについて列挙できる。						
3 認知症の中核症状と行動・心理症状（BPSD）等の基本的特性、及びそれに影響する要因を列挙できる。						
4 認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションの取り方、及び介護の原則について列挙できる。また、同様に、若年性認知者の特性についても列挙できる。						
5 認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、廃用症候群予防について概説できる。						
6 認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードについて列挙できる。						
7 認知症の利用者とのコミュニケーション（言語・非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。						
8 家族の気持ちや、家族の受けやすいストレスについて列挙できる。						
使用するテキスト						
学習内容と学習ポイント						
学習内容		時間数	学習ポイント			
① 認知症を取り巻く状況		1	・ 認知症ケアの理念 ・ パーソンセンターケア ・ 認知症ケアの視点			
② 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理		2	・ 認知症の概念 ・ 認知症の原因疾患とその病態 ・ 原因疾患別ケアのポイント ・ 健康管理			
③ 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活		2	・ 認知症の人の生活環境 ・ 心理・行動の特徴 ・ 認知症の利用者への対応			
④ 家族への支援		1	・ 認知症の受容過程での援助 ・ 介護負担の軽減（レスパイトサービス）			
試験			・ 筆記試験			

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	障害の理解	講師名	佐藤 恵	授業時間数	3		
科目の概要							
1 障害の概念とICF、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。							
終了時の達成課題（到達目標）							
1 障害の概念とICFについて概説でき、各障害の内容・特徴及び障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。							
2 障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。							
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 障害の基本的理解		1	・ 障害の概念とICF ・ 障害者福祉の基本理念 ・ ノーマライゼーションの概念				
② 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、関わり支援等の基礎的知識		1	・ 身体障害 視覚障害、聴覚・平衡障害、音声・言語・咀嚼障害、肢体不自由、内部障害 ・ 知的障害、発達障害 ・ 精神障害 ・ その他の心身の機能障害				
③ 家族の心理、関わり支援の理解		1	・ 障害の理解・障害の受容支援 ・ 介護負担の軽減				
試験			・ 筆記試験				

講義概要（シラバス）

専門学校日本福祉学院 初任者研修

科目名	振り返り	講師名	阿部 香子	授業時間数	4		
科目の概要		1 研修全体を振り返り、本研修を通して学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。					
終了時の達成課題（到達目標）		1 介護職としての自分がイメージでき、自己覚知できる。 2 介護職の倫理・責務が身につけられる。 3 更なる知識・技術の獲得に向けて自己研鑽できる。					
使用するテキスト							
学習内容と学習ポイント							
学習内容		時間数	学習ポイント				
① 振り返り		3	・実習のまとめと報告会 ・学習の振り返り 介護技術の振り返りと知識獲得の満足度確認 ・自己覚知（自分の不足な所に気付く支援）				
② 就業への備えと研修終了後における継続的な研修		1	・学習継続の必要性 ・更なる研修紹介				
試験			・筆記試験				